

産業・観光関連施設

施設概要

◇食肉センター

畜産振興と食肉の安定供給を目的として整備されましたが、近年の食肉の生産・流通の変化に伴う利用率の低下や施設の老朽化に加え、と畜場法の一部改正によるHACCPに沿った衛生管理による施設運営が課題となっています。

◇メディカルクリエイティブセンター

医療福祉分野における新事業・新産業の創出を図ることにより、地域経済の発展に資するため、産学公連携等により医療福祉分野での新事業・新産業創出を目指す者が入居し、事業化に向けた事業活動を行っています。

◇中小企業事業化支援施設

中小企業者による新事業の創出を促進することにより、地域経済の発展に資するため、ものづくり分野での新事業・新産業創出を目指す者が入居し、事業化に向けた事業活動を行っています。

◇超高温材料研究センター

第3セクターの株式会社超高温材料研究センターが先端設備の賃貸業務を行っていましたが、平成17年に同センターが解散したことに伴い、清算人から本市へ無償譲渡されました。その後、同センターが本施設を借り受けて、航空・宇宙・エネルギー分野などでの用途が期待される超高温用耐熱材料や機能性材料の開発や商品化に取り組んでいます。

◇善和牧場及び中山共同畜舎

畜産の飼育施設として整備し、管理運営はJAに委託しています。

◇楠こもれびの郷

市民の憩いと安らぎの場を提供し、農林業の振興及び地域の活性化並びに中山間地域を連携する施設として整備し、指定管理者による運営を行っています。

◇船木ライスセンター

農家負担軽減のための米麦乾燥調整施設として整備し、管理運営はJAに委託しています。

◇楠農産物加工所

農産物の加工処理施設として整備し、株式会社に管理を委託し、同社が利用しています。

◇中央卸売市場

野菜・果物などの生鮮食料品を産地から集荷し、公正な値決めを行い、市民に安定供給することを目的に農林水産大臣の認定を受けて開設しています。

◇地方卸売市場

新鮮な水産物を各地から集荷し、公正な値決めを行い、市民に安定供給することを目的に山口県知事の認定を受けて開設しています。

◇小野大型共同作業所

平成9年度に建築され、地元企業への貸与は終了しています。

◇木材チップ工場

昭和41年度に建築され、地元企業への貸与は終了しています。

◇ときわ公園

市民の憩いの場であるとともに、各種イベント、文化ゾーンの公園施設として整備され、幅広い市民に利用されています。

令和2年4月1日現在の施設概要

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐震化		延床面積 (㎡)	運営	防災 施設
					診断	改修			
食肉センター	川上	昭和40年度	54年	R C	未	未	957.69	委	非該当
メディカルクリエイティブセンター	新川	平成14年度	17年	S	不要	不要	1,133.69	指	非該当
中小企業事業化支援施設	川上	平成15年度	16年	S	不要	不要	786.80	直	非該当
超高温材料研究センター	常盤	平成2年度	29年	R C	不要	不要	2,684.38	委	非該当
善和牧場	二俣瀬	昭和54年度	40年	S	未	未	395.94	委	非該当
中山共同畜舎	小野	昭和58年度	36年	S	不要	不要	2,929.56	委	非該当
楠こもれびの郷	万倉	平成20年度	11年	W	不要	不要	2,027.08	指	該当
船木ライスセンター	船木	昭和60年度	34年	S	不要	不要	496.09	委	非該当
楠農産物加工所	万倉	平成11年度	20年	S	不要	不要	250.89	委	非該当
中央卸売市場	藤山	昭和46年度	48年	R C	未	未	15,174.71	直	非該当
地方卸売市場	神原	昭和43年度	51年	R C	未	未	3,326.08	指	非該当
小野大型共同作業所	小野	平成9年度	22年	S	不要	不要	300.08	直	非該当
木材チップ工場	小野	昭和41年度	53年	S	未	未	358.8	直	非該当
ときわ公園									
ときわ湖水ホール	常盤	平成2年度	29年	R C	不要	不要	2,849.63	直	該当
ときわミュージアム	常盤	平成6年度	25年	S	不要	不要	2,718.99	直	該当
ときわレストハウス	常盤	平成8年度	23年	S	不要	不要	1,350.19	直	非該当
石炭記念館	常盤	昭和44年度	50年	R C	済	済	1,020.63	直	非該当
遊戯場	常盤	平成元年度	30年	S	不要	不要	821.48	直	非該当
無料休憩所	常盤	平成4年度	27年	S	不要	不要	210.83	委	非該当
培養温室	常盤	平成8年度	23年	S	不要	不要	396.90	直	非該当
動物園体験学習棟	常盤	平成26年度	5年	S	不要	不要	407.67	委	非該当
旧青年の家	常盤	昭和37年度	57年	R C	未	未	999.84	直	非該当

※RC・・・鉄筋コンクリート造、S・・・鉄骨造、CB・・・コンクリートブロック造、W・・・木造

【備考】

- ・建築年度、築年数、構造、耐震化は、主たる建物の状況を記載しています。
- ・耐震化について、昭和57年以降の建築物（新耐震基準）、耐震診断により新耐震基準を満たしていることが判明した建築物は、「不要」と記載しています。
- ・運営について、直営は「直」、指定管理は「指」、委託（指定管理を除く。）は「委」と記載しています。
- ・防災施設について、災害時に避難所、緊急避難場所、防災拠点として使用される施設は、「該当」と記載しています。

施設評価及び今後の方向性

担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
生活衛生課	-	-	-	C	0点	3点					
	評価結果の分析					評価結果の分析					
食肉センター	屋上防水工事など最小限の修繕を行い、施設を維持しているが、昭和40年度に建設され築後54年を経過しており、施設を継続して使用するためには大規模改修又は更新が必要で、億単位の費用を要する。					と畜頭数は、設置当初の1/20に減少し、現在の利用業者は3者のみであり、当施設の必要性が低くなっている。また、県内施設の利用は困難な状況にあるが、北九州市食肉センターの利用が可能となっており、施設維持の必要性は低いと考えられる。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	廃止					売却					
	スケジュール										対策費（千円）
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
昭和40年度に建設され、築後54年を経過し、老朽化が進んでいる。 食肉の生産や流通の変化に伴う利用率の低下や収支の状況等を総合的に勘案し、施設を廃止する。 廃止後は、売却を検討する。											
商工振興課	B	B	B	A	3点	0点					
	評価結果の分析					評価結果の分析					
メディカルクリエイティブセンター	本館全室（11部屋）、別棟（産学共同研究開発棟）とも利用中。平成18年度から指定管理者制度を導入し、経費の節減を図りながら雨漏り補修など小規模な修繕を行い、現状維持している。					医療福祉分野における研究開発等を行う事業者のための事業化支援施設であり、立地的にも隣接する山口大学医学部との連携がしやすく、他の公共施設等への機能移転や民間移管は考えにくい。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	現状維持					現状維持					
	スケジュール										対策費（千円）
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
医療福祉分野の新産業及び新事業の創出を図り、医療福祉機器等の研究開発等を行う事業者を支援する施設である。 平成14年度に建築した耐震性を有する施設であり、日常的補修を適宜実施して現状維持する。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
商工振興課	B	A	A	A	3点	0点					
中小企業事業化 支援施設	評価結果の分析				評価結果の分析						
	4棟（全棟）とも利用中。年次計画的に各棟の外装塗装工事や照明器具のLED化のほか、小規模な修繕を行い、現状維持している。				新たな事業化・製品化を目指す中小企業者を支援するための施設である。山口県産業技術センターに隣接し、低価格で利用できる施設のためニーズが高く、当面現状維持が妥当と考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
	新たな事業化・製品化を目指す中小企業者を支援する施設である。 平成15年度及び平成17年度に建築した耐震性を有する施設であり、年次計画的に整備を行い現状維持する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
商工振興課	B	A	A	A	3点	0点					
超高温材料研究 センター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	市と(株)超高温材料研究センターが賃貸借契約を締結し、施設の維持管理全般を同センターが適切に行っている。平成2年度に建築後、大規模な改修等は要していない。				各種先端素材の研究開発の推進を目的に設立された第3セクターの事業を継続して実施しており、地域産業の技術革新や人材育成につながっていることから、現状維持が妥当と考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
	(株)超高温材料研究センターの研究内容は、地域産業の技術革新や人材育成につながっている。 平成2年度に建築後、躯体に問題は生じておらず現状維持する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
農林振興課	B	C	C	C	2点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
善和牧場	J Aに施設管理を委託し、現在、畜産農家が20頭程度飼育しているが、施設の老朽化が著しい。				畜産の振興（ブランド牛の保全）として当該施設の必要性はあるものの、行政関与の必要性は低いいため、民間事業者への移管は考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	廃止				売却						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
畜産の振興として必要な施設ではあるものの、行政の関与の必要性は低く、現在の利用形態及び管理状況を勘案した場合、J A又は畜産農家への譲渡又は売却について検討していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
農林振興課	C	A	B	C	2点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
中山共同畜舎	J Aに施設管理を委託し、現在畜産農家がブランド牛の飼育開始に向けて準備を進めているが、施設の老朽化は著しい。				畜産の振興（ブランド牛の保全）として当該施設の必要性はあるものの、行政関与の必要性は低いいため、民間事業者への移管は考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	廃止				売却						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
畜産の振興として必要な施設ではあるものの、行政の関与の必要性は低く、現在の利用形態及び管理状況を勘案した場合、J A又は畜産農家への譲渡又は売却について検討していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
農林振興課	A	A	A	A	2点	2点					
楠こもれびの郷	評価結果の分析				評価結果の分析						
	施設が有効的・効果的に活用されている。宇部市楠こもれびの郷基金を活用し、計画的な修繕を実施してきた成果もあり、建物の健全度は高く、かつ耐震性を有している。				行政関与の必要性は低いが、地産地消、6次産業化等による地域経済の振興やにぎわいづくり、農業の担い手の育成などを目的として開設した施設であり、必要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	125,611
	説明										
	平成20年度に建設され、築後11年が経過する耐震性のある施設である。行政の関与の必要性は低いものの、施策上の必要性は高い。今後も引き続き計画的な改修を実施し、施設の長寿命化に務める。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
農林振興課	B	B	B	C	2点	1点					
船木ライスセンター	評価結果の分析				評価結果の分析						
	JAが受託管理運営を行っている。利用量は減少傾向であり、施設の老朽化が著しい。				JAが他地域に保有するライスセンターへの機能統合等、民間への移管が考えられる。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	廃止				売却						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	昭和60年度に建設され、JAが管理運営を受託している。施設の修繕に係る経費は宇部市船木ライスセンター基金からの繰出により対応しているため適切な維持管理をしているが、老朽化は著しい。今後5年の間で、JAのライスセンター運営委員会の意見を踏まえ、受託者と売却又は譲渡に向けた協議を進める。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
農林振興課	C	B	C	A	2点	1点					
楠農産物加工所	評価結果の分析				評価結果の分析						
	地元の株式会社が施設を利用し、管理を受託している。				行政関与の必要性は低いが、農業振興上、地産地消、6次産業化等による地域経済の振興のため必要な施設である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	平成11年度に建設され、築後20年が経過する耐震性のある施設である。行政の関与の必要性は低いものの、施策上の必要性は高い。日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
卸売市場	—	—	—	A	3点	0点					
中央卸売市場	評価結果の分析				評価結果の分析						
	建物の点検結果では、大きな問題はないと判断している。 当面は小規模修繕を行いながら、年次的に耐震診断、長寿命化に向けた改修を行うことが必要である。				野菜・果物などの生鮮食料品を安定供給することで、市民生活の安定に寄与している重要な施設である。 全国の中央卸売市場は、現在、全て地方自治体が開設者となっており、民間移管の可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				耐震化、長寿命化改修						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	1,493,230
	説明										
	野菜・果物などの生鮮食料品を安定供給し、市民生活の安定に寄与する重要な施設である。主たる建物は昭和46年度に建設され、築後48年経過している。今後、卸売場棟及び仲卸売場棟を中心に耐震化、長寿命化改修等を年次的に進めていく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
卸売市場	—	—	—	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
地方卸売市場	建物の点検結果では、大きな問題はないと判断している。 当面は小規模修繕を行いながら、年次的に耐震診断、長寿命化に向けた改修を行うことが必要である。				鮮魚などの生鮮食料品を安定供給することで、市民生活の安定に寄与している重要な施設である。 平成27年度から指定管理者制度へ移行しているが、民間移管の可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				耐震化、長寿命化改修						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 596,300
	説明										
鮮魚などの生鮮食料品を安定供給し、市民生活の安定に寄与する重要な施設である。施設の主たる建物は昭和43年度に建設され、築後51年経過している。今後、鮮魚卸売場棟を中心に耐震化、長寿命化改修等を年次的に進めていく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
人権・男女共同参画推進課	C	B	C	A	0点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
小野大型共同作業所	所期の目的（縫製工場として地元に貸与）が終了し、市民の利活用のない状態である。建物の状態は概ね良好である。				民間企業、市民等への貸付など利活用について検討していく。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	廃止				貸付						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
平成9年度に建設された施設で、所期の目的（縫製工場として地元に貸与）が終了しており機能は廃止するが、建物の状態が概ね良いため、今後、必要な修繕を行った上で貸付を行う。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
人権・男女共同参画 推進課	C	B	C	A	0点	0点					
木材チップ工場	評価結果の分析				評価結果の分析						
	木材チップ工場としての地元企業への貸与は終了している。築後50年以上が経過し耐震性はない。				活用されていない施設であり、廃止を含めた見直しも検討する必要がある。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	廃止				売却						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	昭和41年度に建設され、築後50年以上が経過し老朽化しており、耐震性もなく、今後の活用の見込みもないため、廃止を検討をする。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	A	C	B	C	3点	0点					
ときわ公園 ときわ湖水ホール	評価結果の分析				評価結果の分析						
	各貸部屋は、イベントや研修・会議等で多く利用されている。また、市庁舎の防災中枢機能が被災した場合の代替機能施設に指定されている。施設の老朽化が目立つ。				ときわ公園の各種イベント、憩いの場として幅広く活用されており、防災の代替機能施設にも指定されている。近隣公共施設への機能移転の可能性については低いと考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	93,000
	説明										
	各種イベント等で多くの市民・団体に利用されており、また、市庁舎の防災中枢機能の代替機能施設にも指定されている重要な施設である。空調設備改修を行い、今後も、日常的補修を適宜実施していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	A	A	A	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 ときわミュージアム	多くの人々に生きた植物に親しめる場と機会を提供することで、植物・園芸に関する知識・技術の普及、向上に努め、自然に親しむ心を養うための施設である。				多数の植物を収集・育成・保存し、併せて学術研究等に資するため植物館の必要性は高いと考えられる。また類似の施設等も近隣に存在しないため代替可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				長寿命化改修						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	7,700
	説明										
	多数の植物を収集、育成、保存し、教育的配慮のもと植栽・展示する学術研究等に資する植物館である。				屋上防水工事を行い、今後も、日常的補修を適宜実施していく。						

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	A	C	B	B	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 ときわレストハウス	1階は、売店及びレストランとして賃貸しており、2階は、無料休憩所として多くの団体に利用されている。来園者への食の提供や雨天時等で団体が利用する休憩スペースである。				入園者の利便性の向上と観光客の誘致を図るため建設した施設である。団体客の休憩スペース等に活用されていることから、今後もその機能は継続するものとする。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール								対策費（千円）		
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	入園者の利便性の向上と観光客の誘致を図るため建設した施設で、主に団体客の休憩スペース等に活用されている。				今後、日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。						

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	A	A	A	C	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 石炭記念館	昭和44年度建築で老朽化が進んでいる。石炭関係者や市民からの寄附により建設されており、収蔵品を収容できる他施設もないため、必要に応じて受益者負担の観点から使用料等の見直しについて検討する。				日本初の石炭記念館、地域の歴史・文化伝承の場としての性格を持った施設である。市内には、同じ機能の施設（学びの森くすのき）があるが、収蔵品を一つにまとめるだけの展示スペースがなく代替可能性は低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	検討中				検討中						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	未定
	説明										
市民アンケート等で広く意見を募り、今後の方向性について改めて検討を行っていく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	B	A	A	C	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 遊戯場	遊園地を運営する民間事業者の事務所として賃貸しているほか、団体客の休憩スペース及びイベントの備品スペースとして利用されている。				遊園地を運営する民間事業者の事務所として賃貸していることや来園客の休憩スペース等で利用しているため必要性は高い。当初の施設の目的を変更し利用しているが、遊園地と一体となって有効に利用されている。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
ときわ遊園地としての価値を高めるためゲームコーナーとして建設された後、ときわ遊園地の運営業務や団体客の休憩のためのスペース等として有効的に活用され、機能している。 今後、小規模修繕を行いながら現状を維持する。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	A	A	A	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 無料休憩所	無料の休憩場所の機能のほか、新たに飲食の提供スペースを目的に建設された施設であり、来園者の利用は多い。				飲食の提供や休憩スペースとして来園者の利用は高く、機能の性質や立地などから代替の可能性も低い。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
無料の休憩場所の機能のほか、新たに飲食の提供スペースを目的に建設された施設である。来園者の利用は高く、今後も小規模修繕を行いながら現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	B	A	A	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 培養温室	施設の状況から大規模な修繕は必要ない。				ときわミュージアム世界を旅する植物館のバックヤード施設として、植物館を運営していく上で欠かせない施設であるため、今後も機能は継続するものとする。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
植物多様性の保全に取り組むとともに、植物館のバックヤード施設であるため、今後も小規模修繕を行いながら現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	A	C	A	A	3点	1点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 動物園体験学習棟	動物や環境について、体感・実感する体験を通じて楽しみながら学ぶことのできる施設として、市内を始め県内外の子どもから大人まで幅広い層に利用されている。				動物の生態を理解し、環境教育にもつなげる動物園の役割を説明する施設として行政関与の必要性は高いと考えられる。動物園と一体となって環境学習に取り組む場となっているため、近隣公共施設の機能移転は難しい。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
動物や環境について体感・実感する体験を通じて楽しみながら学ぶことができる施設であり、今後も小規模修繕を行いながら現状を維持していく。											

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
ときわ公園課	C	C	C	C	0点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
ときわ公園 旧青年の家	研修施設としての機能を終え、現在は、ときわ公園の倉庫兼資材置場として利用している。耐震性が低い建物であり、現在の利用状況から耐震補強工事をしてまで維持をしていく必要性が乏しい。				ときわ公園の倉庫兼資材置場として活用している。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	廃止				解体						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	59,990
	説明										
研修施設としての機能を終え、現在、ときわ公園の運営に必要となる備品を数多く保管している状況である。当該施設は耐震性が低いことから、令和11年度を目途に施設を解体し、施設内の備品の保管については、民間の貸倉庫や園内の代替地に貸倉庫をリースする方向で検討していく。											